

旭化成ファーマ株式会社

- ・ 会社概要
- ・ 脳・神経疾患 共同研究ウィッシュ紹介

医薬研究センター
オープンイノベーション部
赤荻 健介

旭化成株式会社 概要

Asahi Kasei Corporation

Holding company function

Operating function

Basic Materials
Performance Products
Specialty Solution

Asahi Kasei
Microdevices
Electronic Devices

Asahi Kasei Homes
Homes

Asahi Kasei
Construction Materials
Construction Materials

Asahi Kasei Pharma
Pharmaceuticals

Veloxis Pharmaceuticals
Pharmaceuticals

Asahi Kasei Medical
Medical Care

ZOLL Medical
Acute Critical Care

Material

Homes

Health Care

私たち旭化成グループは、
世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献します。

AsahiKASEI

創業：1922年

代表取締役社長：小堀秀毅

売上高：2兆1,704億円

従業員数：39,283人

旭化成ファーマ株式会社 概要

創業: 1920年 (東洋醸造)

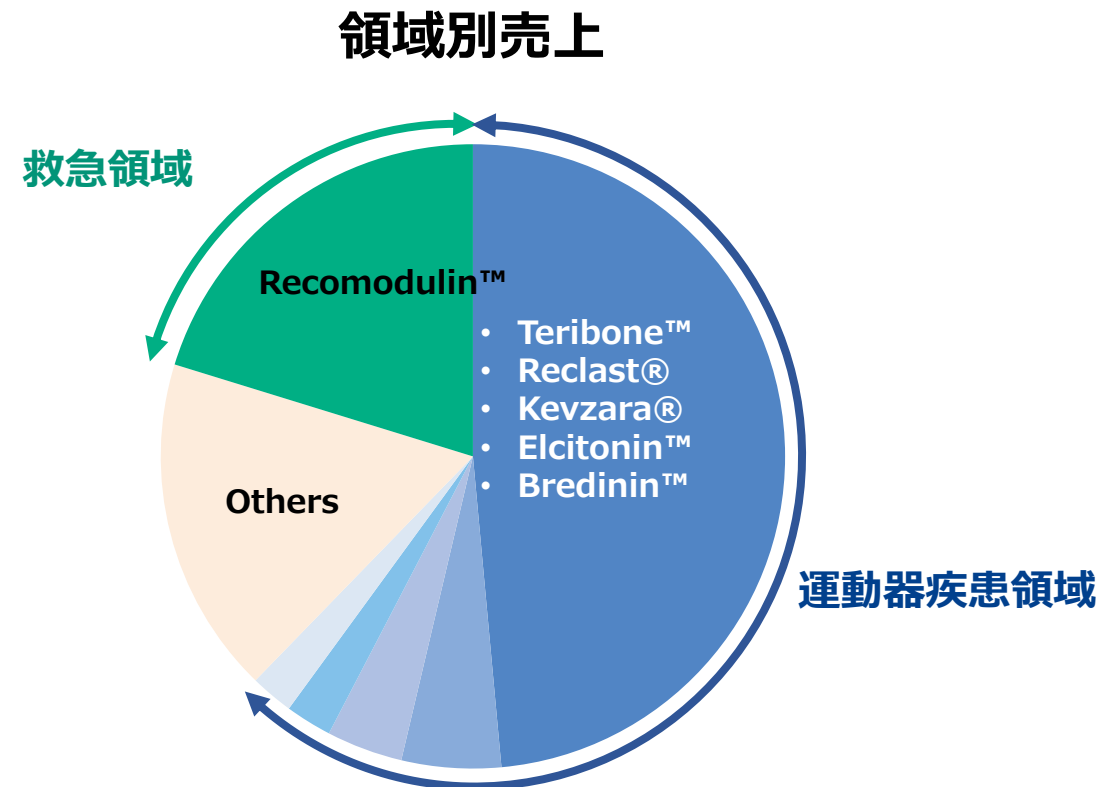
代表取締役社長: 青木 喜和

売上高: 635 億円 (FY 2019)

従業員数: 約1,800人

研究開発対象領域:

- ◆ 疼痛・神経変性疾患
- ◆ 自己免疫疾患
- ◆ 救急領域
- ◆ 骨・軟骨領域
- ◆ 筋疾患領域



医薬研究センター

旭化成ファーマ医薬研究センター (静岡県伊豆の国市)



オープンイノベーション部は東京駐在(ミッドタウン日比谷)

主な提携先

2020年3月～	SBIバイオテック株式会社 SBI-3150（抗PLD4モノクローナル抗体）の独占的ライセンス契約
2019年12月～	株式会社Veritas In Silico mRNA標的的低分子医薬品の創出に向けた共同研究開始
2018年1月～	株式会社ディー・エヌ・エー AI創薬（ケモインフォマティクス）に関する共同研究
2017年 4月～	国内大学との公募共同研究開始 創薬プロジェクト、創薬基盤技術、薬効評価技術など
2017年 3月	ラクオリア創薬（株） P2X7阻害剤の全世界における開発・販売権の獲得
2016年 6月	Orion Corporation 疼痛領域における戦略的研究開発・販売の提携：東アジア
2016年 5月	Array BioPharma ARRY-954(慢性疼痛)の導入：東アジア
2016年 3月	ペプチドリーム（株） 複数の創薬標的分子に対する特殊ペプチドを創製する共同研究
2013年11月	ラクオリア創薬（株） 特定のイオンチャネルを標的とした創薬研究に関する共同研究
2013年10月	Vernalis plc 関節リウマチを含む自己免疫疾患領域に対する創薬共同研究



PeptiDream



innovators for life



パートナーリングとライセンスアウトの成果

プレスリリース

慢性疼痛薬AK1780に関する旭化成ファーマ株式会社とイーライリリー・アンド・カンパニーのライセンス契約締結のお知らせ

旭化成ファーマ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：青木 喜和、以下「旭化成ファーマ」）とイーライリリー・アンド・カンパニー（本社：米国インディアナ州インディアナポリス、CEO：デイビッド・A・リックス、以下「リリー」）は、このたび、旭化成ファーマが開発している「AK1780」について、リリーが独占的实施権を取得するライセンス契約を締結したことをお知らせします。AK1780はP2X7受容体拮抗作用を有する経口投与可能な薬剤で、現在、用量漸増単回・反復投与第1相臨床試験およびいくつかの臨床薬理試験が終了しています。P2X7受容体は、慢性疼痛症状の原因となる神経炎症に一貫して関係している分子です。

今回のライセンス契約に基づき、リリーは今後AK1780に関するグローバル開発と承認取得活動の責任を有することになります。リリーは、旭化成ファーマに対して契約一時金として20百万米ドルを支払い、さらに、旭化成ファーマは今後、開発および承認取得マイルストーンとして、最大で210百万米ドルを受領する可能性があります。旭化成ファーマは、日本と中国（香港、マカオを含む）におけるAK1780の販売権を保持しています。AK1780の商業化に成功した場合、販売一時金として最大で180百万米ドル、販売ロイヤルティーとして、一桁台半ばから二桁台前半の料率のロイヤルティーを段階的に受領することになります。

AsahiKASEI

研究公募プログラム (A-COMPASS)

AsahiKASEI
ASAHI KASEI PHARMA

- 研究資金
- 医薬品開発
- 実用化研究



応募者

アカデミア
ベンチャー企業等

- アイデア
- テクノロジー
- 知見、ノウハウ

革新的医薬品

OPEN
INNOVATION

旭化成ファーマ オープンイノベーション

A-COMPASS

これまでの実績

2020年実施分

パートナー	応募総数	カテゴリー	
国内外 アカデミア	87件	創薬シーズ	共同研究 -件 研究育成 2件
		創薬・基盤技術	共同研究 3件 研究育成 -件



2019年実施分

パートナー	応募総数	カテゴリー	
国内外 アカデミア	104件	創薬シーズ	共同研究 0件 研究育成 1件 化合物供与 1件
		創薬・基盤技術	共同研究 5件 研究育成 2件



2018年実施分


パートナー	応募総数	カテゴリー	
国内 アカデミア	32件	創薬シーズ	共同研究 1件 技術移管 1件
		創薬・基盤技術	共同研究 4件



旭化成ファーマの共同研究Wish


01 共同研究/研究育成

神経変性疾患領域




02 共同研究/研究育成

自己免疫疾患領域



03 共同研究/研究育成

救急領域



04 共同研究/研究育成

骨・軟骨領域



05 共同研究/研究育成

筋疾患領域



5疾患領域における、創薬シーズをもとにした共同研究機会を探しております。

旭化成ファーマの共同研究Wish

神経変性疾患領域

神経変性疾患領域

1 神経変性疾患治療における新規創薬標的分子、又は医薬品候補物質

- ・ 対象疾患：日本国内で難病指定を受けている、若しくは米国でrare diseaseとされているものが望ましい（アルツハイマー病およびパーキンソン病等の大規模臨床試験を伴う神経変性疾患は除外対象とする）
- ・ 医薬品候補物質（低分子化合物・ペプチド・抗体・タンパク質、核酸等）があるものを優先する
- ・ 臨床試験以前の段階にあること
- ・ ヒト外挿性の高い病態モデル動物、又はヒト細胞を用いた薬効データが取得されていることが望ましい

神経変性疾患領域

1 神経変性疾患治療における新規創薬標的分子、又は医薬品候補物質

興味のある疾患の具体例：
筋萎縮性側索硬化症 (Amyotrophic Lateral Sclerosis : ALS)
脊髄小脳失調症 (Spinocerebellar Ataxia : SCA)
多系統萎縮症 (multiple system atrophy : MSA)
レット症候群 (Rett syndrome)
シャルコーマリートゥース病 (Charcot-Marie-Tooth disease : CMT)
進行性核上性麻痺 (progressive supranuclea palsy : PSP)

興味のあるメカニズム：
凝集タンパク質除去
タンパク質品質制御
その他、各疾患における新規治療アプローチ

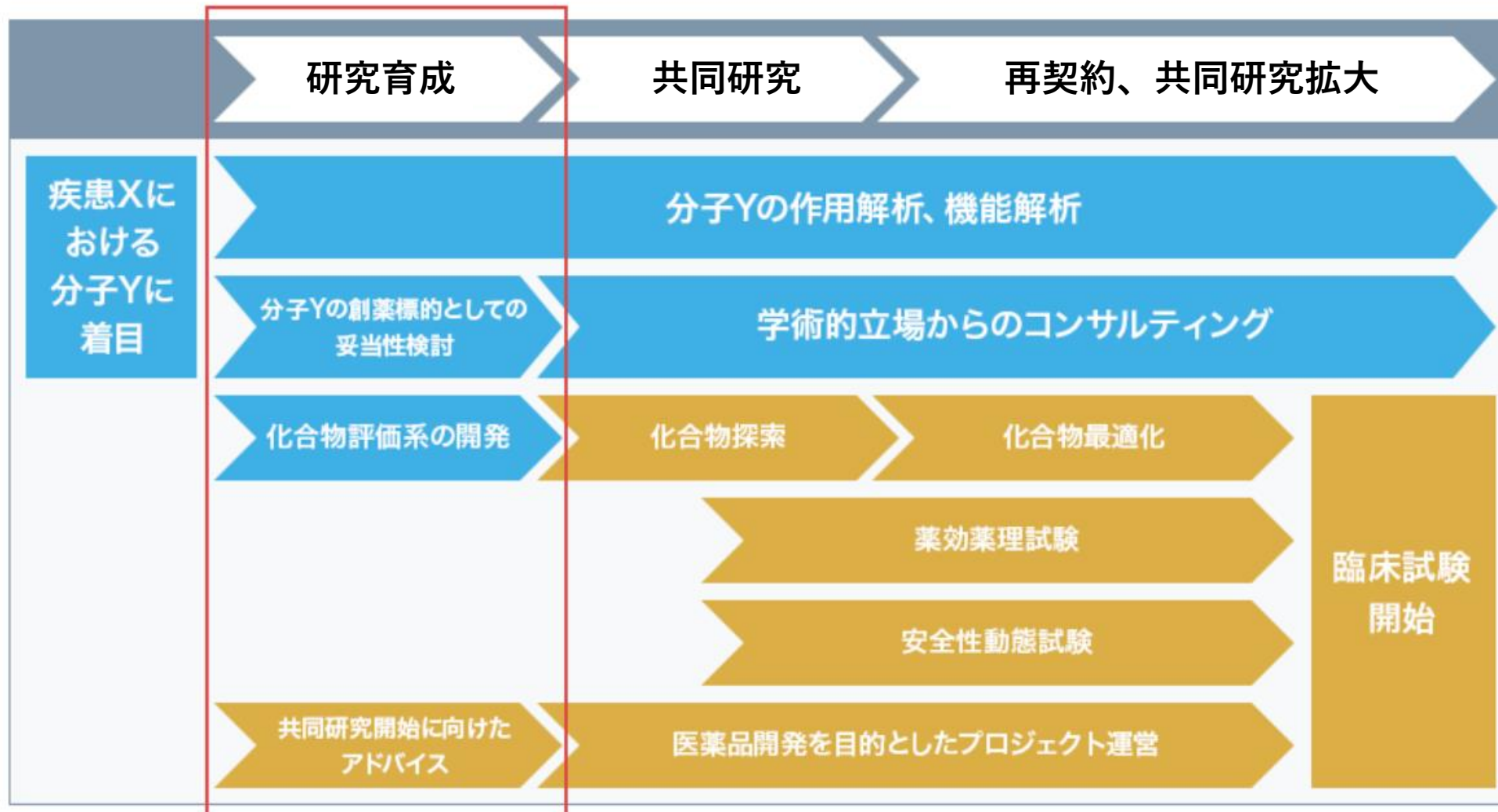
神経変性疾患領域

1 神経変性疾患治療における新規創薬標的分子、又は医薬品候補物質

興味のある実験技術：	各疾患における細胞評価系 各疾患におけるモデル動物と薬効評価系 凝集タンパク質除去のための手法 タンパク質品質制御のための手法 その他、各疾患における新規治療手法
対象外とする技術：	細胞治療 ワクチン 天然物、生薬

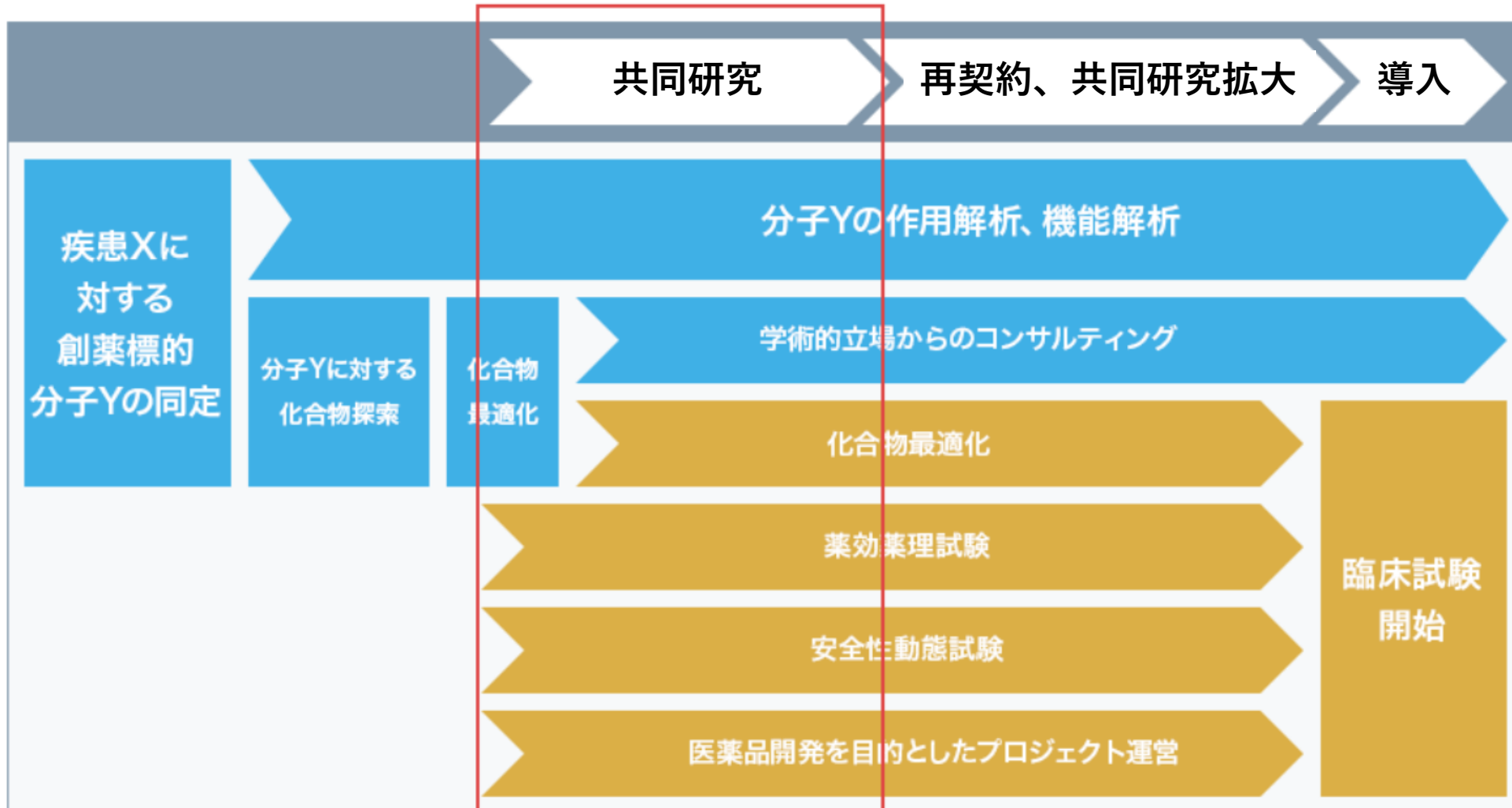
共同研究形態の例 1

創薬標的となりうる分子に着目している提案の例



共同研究形態の例 2

医薬品候補物質を有している提案の例



■ A大学

■ 旭化成ファーマ

Contact

旭化成ファーマ株式会社
医薬研究センター オープンイノベーション部

赤荻 健介 (Kensuke Akaogi, Ph.D.)

🔍 旭化成 共同研究

www.asahikasei-pharma.co.jp/a-compass/jp/



ご清聴ありがとうございました。

自己免疫疾患領域

2 自己免疫疾患治療における新規創薬標的分子、又は医薬品候補物質、あるいはコンセプト・アイデア

- ・ 対象疾患：難病もしくは難治性の自己免疫疾患（全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症など）
- ・ 医薬品候補物質（低分子化合物・ペプチド・抗体・タンパク質、核酸等）があるものを優先する
- ・ 臨床試験以前の段階にあること
- ・ 標的分子及び作用機序が解明済みであることが望ましい
- ・ 病態モデル動物において薬効データが取得されていることが望ましい
- ・ 既存療法および先行開発品に対する優位性が期待できるデータもしくはアイデアを有することが望ましい

3 救急領域における新規創薬標的分子、又は医薬品候補物質

- ・ 対象疾患：急性呼吸窮迫症候群（ARDS）、重症感染症（菌血症、感染性心内膜炎、肺炎）、急性腎障害（AKI）
- ・ 遺伝子治療、細胞治療、治療デバイスは対象外とする
- ・ 臨床試験以前の段階にあること
- ・ 薬効や作用機序を裏付けるデータ、想定する薬剤のポジショニングや特長を示すデータを有すること
- ・ in vivoデータ（薬効、代謝安定性、毒性）を有することが望ましい

骨・軟骨領域

4.1 骨系統の難病・希少疾患における医薬品候補物質

- ・ 対象疾患：後縦靭帯骨化症(OPLL)や進行性骨化性線維異形成症（FOP）など骨系統の難病
- ・ Lead to Candidateステージ～Preclinicalステージを対象とする（ドラッグリポジショニングも対象とする）
- ・ in vivoもしくはin vitroで薬効データが取得されていること

4.2 軟骨の難病・希少疾患における医薬品候補物質

- ・ 対象疾患：軟骨無形成症など軟骨の難病・希少疾患（軟骨低形成症、軟骨異栄養症を含む）
- ・ Lead to Candidateステージ～Preclinicalステージを対象とする（ドラッグリポジショニングも対象とする）
- ・ 新規の創薬ターゲットであること
- ・ in vitroでの薬効が示されており、in vivoでも薬効データが取得されているか、強く示唆されていること

4.3 関節軟骨の損傷・変性治療に対する医薬品候補物質

- ・ 対象疾患：関節軟骨の損傷・変性
- ・ Lead to Candidateステージ～Preclinicalステージを対象とする（ドラッグリポジショニングも対象とする）
- ・ 細胞治療またはマイクロフラクチャー等の外科処置の効果を高める医薬品・医療材料等があれば望ましい
- ・ 局所投与できること
- ・ in vivoで安全性、体内動態および有効性が示唆されていること

5 筋疾患治療における新規創薬標的分子、又は医薬品候補物質

- ・ 対象疾患：癌性悪液質、廃用性筋萎縮、サルコペニア、筋ジストロフィーなど
- ・ 医薬品候補物質（低分子化合物・ペプチド・抗体・タンパク質、核酸等）があるものを優先する
- ・ 臨床試験以前の段階にあること
- ・ ヒト外挿性の高い病態モデル動物、又はヒト細胞を用いた薬効データが取得されていることが望ましい
- ・ 標的臓器は筋肉に限らない。全身あるいは筋肉以外の組織に作用し、副次的であっても筋肉に作用することで筋疾患治療薬になり得る標的分子は評価の対象とする。ただし、癌性悪液質に対する抗がん剤治療は除く
- ・ 作用メカニズムが運動、ミトコンドリア、NAD/Sirtuinシグナル、老化・寿命制御のいずれかに関連しているものが望ましい
- ・ 癌性悪液質に対する抗がん剤治療は対象としない